

1 研究主題

子どもが輝く学びの創造

～子どもの思考・表現する場を大切にしたい授業づくり～

2 研究の具体

本校は、令和6年11月に開催予定の四国社会科教育研究大会香川県大会に向けて、社会科の授業を中心に以下の3つの視点で研究に取り組んでいる。

【視点1】 解決への追究意欲を高める学習問題（問い）の工夫

(1) 追究意欲を高める教材の開発とその条件

- ① 具体性 ② 矛盾性 ③ 周縁性

(2) 心を揺さぶる教材との出会いによる学習問題の設定

① 問いの工夫

パターン1「あれ？」 パターン2「どのように？」 パターン3「?を見つけて」

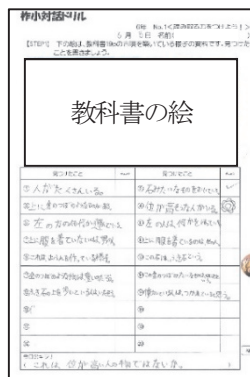
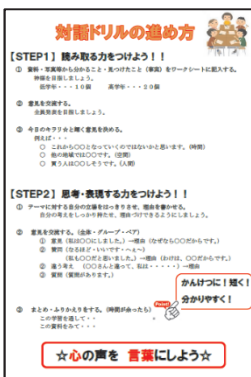
② 資料提示の工夫

ア 段階的に提示

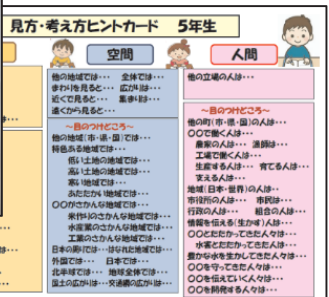
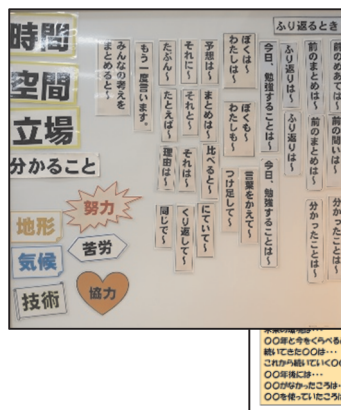
イ 限定的に提示

【視点2】 学び合い、高め合う話し合いの設定

① 「対話ドリル」の設定〈月2回〉



② 話型・ヒントカードの活用〈例：5年〉

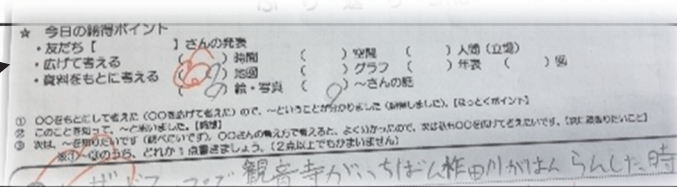


③ 納得解を見いだす民主的な話し合い

【視点3】 ふり返りの工夫

① 発達段階に応じた振り返り

② 学び方に目を向ける振り返り



3 研究の検証及び改善の手立て

○ 対話ドリルで根拠をもって自分の考えを述べる経験や、授業で話型やヒントカードを活用した話し合いを積み重ねることで、自由に考えを出し合い、考えを練り上げていこうとする学習集団が育ってきた。

学び方を振り返ることで、「調べ方」や「考え方」に目を向け、次時や次単元でも活用しようという意識が高まっている。また、社会科の「時間・空間・人間（立場）」の3つの視点から広げて考えられたという価値付けもでき、社会科の見方・考え方を働かせて問題を解決することにも繋がっている。

● 社会科での振り返りを他教科にどう生かすか、また、各学年における振り返りの視点は適切かを見直して改善する。さらに、児童の意見を集約し、納得解に向かうための、助言や支援について研究を進める。